

研究最前線

THE FRONT LINE OF RESEARCH

政治経済学部

「管理する」とは、何を・どうすることだろうか

PROFILE



日向 祥子
HYUGA Shoko

政治経済学部准教授
専門：日本経済史

- 1977年 千葉県生まれ
- 2001年 東京大学経済学部卒業
- 2005年 公益財団法人三菱経済研究所史料館史料部研究員
- 2007年 東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学
- 2008年 静岡大学人文学部経済学科准教授
- 2011年 博士(経済学)取得
- 2018年から現職

主な著書・論文

- 「コンサルティング内の利害調整にみる行動規範—1920年代古河コンサルティングの事例—」(『社会経済史学』71-5、2006年)
- 「『事業部制』導入前の三菱合資会社における資金管理」(『三菱史料館論集』8、2007年)
- 「経済史—経済活動のありようを通して社会の変容を捉える」(松沢裕作・高嶋修一編『日本近・現代史研究入門』岩波書店、2022年)

所属学会

社会経済史学会、政治経済学・経済史学会、経営史学会

「2020年」以降に生じた「変化」にはさまざまなものがありそうですが、「管理」を巡る社会的な動揺もその一つかと思えます。少なくとも、私が直面した限りのコロナ禍体験は、「管理する」とは、何を・どうすることなのか」とい、自身が20年ほど向き合ってきた研究上の問いに深く関わる

ものでした。いわゆるリモートワークにも妥当することだと思えますが、対面での「管理」ができなくなる中で、従来の感覚でチームと受け止められるような行動を従来の意味で防ぐことが、可能だとも、意味のあることだとも思えなくなりました。例えば、通常授業の出欠確認になぞらえて講義

動画の再生履歴をチェックする教員がいる(?)という噂もありましたが、この「監視」に実質的な意味がないことは明らかでしょう。状況が変化したならば、従来の意味における管理対象(例えば「学生の勤勉さを反映しうる出席行動」)を新たな手段で「管理」しようとするよりも、むしろ管理対

象そのものを再定義する必要があるはずですが。そのためには、これまで自分たちが何を・どう「管理」しているつもりでいたのか、自分たちにとって重要なものは何だったのか(出席自体が重要だったのか、そこに反映されるはずの勤勉さが重要だったのか、そもそも勤勉さを評価することに意味はあっ

たのか、など)を問い直さねばなりません。

私は現在、1900年前後の三菱合資会社(三菱グループの元となった企業)における組織管理について研究しています。同社の本社機能は東京におかれていましたが、鉱山や造船所、販売支店といった現業拠点は、九州から東北まで広く各地に点在していました。当時の交通・通信インフラを前提とすれば、あちこちの現業拠点で何が起きているのか、どのような対応が必要なのか、本社が把握するのは容易でなかったでしょう。報告書を提出させるにしても、どのタイミングで・どういった事柄を報告させるべきかという自明の正解は存在しません。三菱の石炭流通管理マニュアルなど1〜2年ごと(一)に改定されていた時期もあるほどで、彼らが常に「管理」手法を模索していた様子がうかがえます。

このマニュアルは、当初、現金出納の機会ごとに逐次記帳を行うよう定めていたのですが、やがて「どの業務に伴う出納なのか」、ひいては「どの出荷ロットに関わる出納なのか」という観点から整理した記帳を求めよう改定されていきました。産業化とともに石炭の用途が汽船燃料から各地の工場用燃料へと広がり、流通経路も

複雑化する中で情報の集約方法を工夫していった結果、カネの出入りを遺漏なく把握する手段に過ぎなかった帳簿が、効率や収益性の分析にも役立つような、戦略的意思決定のための資料としても価値を持つ素材になっていったのです。環境の変化(ここでは市場の急拡大)が「管理」の意味を変えていったと言えるでしょう。



三菱重工長崎造船所(2015年2月撮影)



THE TOKYOMEISHO 馬場先大通り(所名東京)
1906年頃の丸の内「一丁倫敦」(馬場先大通り)

最近、社内通信の分析を行っています。1890年代半ば(日清戦争の頃)には本社から現業拠点へ指示を出すような内容のものが多かったのですが、1900年代半ば(日露戦争の頃)になると、本社で処理した業務について現業拠点へ報告したり、現業拠点側からの申し出や依頼に「承知した」と応答したりするものが著増していることが分かってきました。組織機構自体は大きく変わっていませんが、本社と現業拠点の関係(役割分担の在り方)は変質しているように感じます。

企業の組織図を描いたとしても、それは管理上の役割分担について(実は)ほとんど何も語りません。さまざまな手続きに関する内規も同様で、管理上の「力学」までおのずと語ってくれるわけではありません。「管理する」ということの意味を実態に即して捉え、その変化がどのように「時代」を映し出しているのか考えたいと思っています。